

平成19年3月23日

平成18年度 継続評価書

研究機関 : 株式会社横須賀テレコムリサーチパーク
研究開発課題 : 超小型チップネットワーク技術
研究開発期間 : 平成 15 ~ 19 年度
代表研究責任者 : 越塚 登

総合評価 : 適

(適 / 条件付き適 / 不適の3段階評価)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 研究開発からビジネス化に向けた組織体制、実施計画、予算計画などが、かなり整備されており、本事業の終了後に得られるアウトカムが明確に期待される。
- 学術的な新規性や独創性を論文や特許などの形で明示的にアピールする努力が期待される。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価S

(総論)

計画通りの成果が得られ、非常に進歩的な成果等が得られている。

(コメント)

- 実用化(フィールドテスト)へ進展する成果が得られている。
- 最終年度に向けて、ビジネス展開に向けた販売会社やビジネスフォーラムの構築が進んでおり、ビジネス化の目処がついている。
- 学術的成果は多くないが、実装技術、特許、標準化において成果・貢献が見られる。
- 特許などの技術面や学術面で国際的にもアドバンストメントを確保していくことが望まれる。
- 自立移動支援プロジェクトなどの実験において検証された技術的なブレークスルー(例えば、測位機能など)について明確にしていくことが望まれる。
- 微弱版とUWB版の2種類のチップの技術的共通性と応用・ビジネス上での差別化をさらに明確にしていくことが望まれる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

予算計画書あるいは適切な理由に基づく支出変更理由(以下、予算計画書等)に則り、効率的かつ適正な執行が行われている。さらに、資金管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 試作等が計画通り進んでいることに加え、成果の検証のための実証実験にも積極的に取り組んでいることから、研究開発に効率的に資金が活用されていると判断できる。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

実行可能かつ効率的な計画である。さらに、工程管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 計画が順調に進んでいることを受けて、ビジネス化計画が前倒しで進められており、計画以上の成果が見込まれる。
- Zigbeeベースでの同様の応用と比較した利欠点などを整理し、今後の発展性を明示して欲しい。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

おおむね、効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。さらに、経費節減や執行管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- これまでの実績から、予算計画も妥当性が確認でき、執行管理も適切に行われることが期待される。
- 本研究成果を活かした起業が別途予定されているが、起業のための事業費と、本プロジェクトでの研究開発経費とは明確に切り分けられる必要がある。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価S

(総論)

Aに加えて、特に優れている点を指摘出来る。

(コメント)

- 組織体制はコンパクトで、研究開発とその成果のビジネス化等の役割分担が体系的に整っている。
- 将来の商用化を前提に、協議会などビジネス展開を想定した検討体制が整っている。
- 他の2チームとの連携も最終年度に向けて、強化して頂きたい。